

平成24年度第1回東郷湖活性化プロジェクト推進会議 会議録

日 時 平成24年6月5日(火) 午後1時30分～3時30分
場 所 湯梨浜町役場 2階第1・2会議室

1. 開 会

(進行：中本企画課長)

こんにちは。ただいまより、平成24年度第1回東郷湖活性化プロジェクト推進会議を開催させていただきたいと思います。開催に際しまして、この会議の事務局長は副町長なのでございますが、今日は所用のため若干遅れるということで、庶務の関係をしております企画課長の中本のほうが、議事までの間を進行させていただきたいと思います。よろしくをお願いします。では、2番の町長あいさつということで。

2. 町長あいさつ

皆さん、こんにちは。どうもお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。20年の5月にこの東郷湖活性化プロジェクトを立ち上げまして、前の会長さんのもと、皆さんの協力を得ながら、いくつかの成果が生まれてきていたところでございます。分けてもエコファーマーですとか、あるいはアダプトプログラム、覆砂など、非常に、トライアスロンも含めてなんですけれども、湯梨浜町、湯梨浜の特徴を活かしたといえますか、そういう個性的な面からのアプローチもありまして、湯梨浜町の情報発信やあるいは皆さんとの、町民の皆さんとの協働の体制を、それを具現化していくという中で大きな役割を果たしたと思っております。今回は、メンバーを替えて初めての会ということでございまして、また役員を選任させていただき、これから2年間あらたな取組、これまでのものをさらによりよくしたいということもあろうかと思えます。取り組んでいくことになります。なにとぞよろしくお願い申し上げます

3. 委員紹介

(進行：中本企画課長)

では、レジメに従いまして、3番の委員の紹介ということでございます。東郷湖活性化プロジェクト推進会議設置要綱によりまして、24年5月27日で任期が済んでおりまして、それでこの度新たに皆さんのほうに委嘱ということでさせていただきました。任期は2年間ということで、平成24年5月28日から26年5月27日までということで、よろしくお願ひしたいと思えます。それでは委員紹介ということで自己紹介というかたちで高野さんのほうから順にお願ひしたいと思えます。

(※別添資料により順次自己紹介)

4. 会長、副会長の選出

(進行：中本企画課長)

それでは、続きまして、4番の会長、副会長の選出でございますが、設置要綱によりまして、会長、副会長は委員の互選によるということになっています。いかようなかたちで選出させていただけばよいか、ご意見を伺いたいと思っております。

ご意見がないようでしたら、事務局案というかたちでもいいでしょうか。(異議なし)
すみません。では、事務局といたしまして、会長さんには引き続きではございますが、山田修平先生のほうにお願いしたいと思っております。副会長につきましても、引き続き宮脇町長でお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。(拍手・賛成多数)
ありがとうございました。それでは、会長さん前のほうへ。
それでは、就任早々なんですが、会長さんのほうからごあいさつを

(山田会長)

山田でございます。引き続き会長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。湯梨浜町に住み着いてもう30年近くなります。東郷池に面した家に住んでいるんですけども、毎朝あやめ池とかあちらのほうをウォーキングしたりスロージョギングしたりしていると、今、あやめ池の中の公園が非常にきれいに整備されて、非常にグレードアップしてきたなと思っております。今度反対方向に、松崎駅のほうに行くと、素敵なパン屋さんとかいろんなものができて、池周辺の全体が随分レベルアップしてきたなというのを感じています。この活性化プロジェクト、この東郷池に関してのいろんな事業が行われています。その事業を皆で確認し合いながら、さらにそれを推進する。ただ単発な事業だけではなくて、その事業を皆で連携しながら東郷池を中心に湯梨浜全体が活性化する。そんなことなんじゃないかと思っております。どうぞ忌憚のないご意見を伺わせていただければと思います。よろしく願いいたします。

(中本企画課長)

ありがとうございました。副会長さんのあいさつということも考えましたけれども、町長のほうが先ほどあいさつをいたしましたので、省略いたします。協議に入る前でございますけれども、この今回の推進会議でございますけれども、年3回、二時間程度の会合ということで皆さまのほうにご協力をお願いしたいと思います。

続きまして5番の協議事項でございます。協議事項につきましては、要綱によりまして会長が議長となるということですので、この後、会長さんのほうから進めていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

5. 協議事項

(1) 東郷湖活性化プロジェクトの概要について

(山田会長)

では、進行を努めさせていただきます。順次いきます。1番目の東郷湖活性化プロジェクトの概要について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局 赤坂)

失礼します。お手元の資料「東郷湖活性化プロジェクトの概要について」という資料をご覧くださいませでしょうか。委員の皆様におかれましては、継続してお願いをさせていただいている方、このたび新しくご参画いただく方もございますので、全体の概要を説明させていただきます。

まず資料の1ページ目。東郷湖活性化プロジェクトの目的についてでございます。湯梨浜町のほぼ中央に位置する東郷池の周りには、温泉を始めとした観光資源、伯耆一ノ宮や古墳群などの歴史・文化資源、二十世紀梨の果樹園などがあり、池にはシジミという特産品もございます。この多くの魅力ある資源に恵まれた東郷池を町のシンボル、バロメーターとして、環境、観光、産業、資源の各分野における振興、地域活性化を図ることを目的としております。そして、推進会議は総合的な観光振興、農林水産業振興、環境施策及び文化の振興などを推進していくため、各関係団体で情報共有しながら、連携を深めながら、それぞれを融合した事業の推進を図るために設置されております。推進会議では、東郷池を中心といたしまして、環境・観光・産業・その他地域資源ということで、4つの大きな区分けをしながら具体的な目標を設定しておりまして、環境につきましては「東郷池を昔の美しい姿に」。観光につきましては「東郷池を観光振興の拠点に」。産業につきましては「東郷池の周辺環境を活かした農林水産業の振興を」。地域資源につきましては「東郷池周辺の地域資源を磨き次の世代へ継承を」という大きな目標がございます。内容については、後ほど事業報告等でお話をさせていただきますので、割愛させていただきます。

続きまして2ページ目をご覧ください。東郷湖活性化プロジェクト達成のための手法ですが、資料に簡単な図を記載しておりますけれども、それぞれの分野で実施しているものを情報共有しながら、さらにこの推進会議で取組の推進を図っていくというものでございます。

次に3ページ目になりますが、各分野の具体的な目標について記載しております。平成27年度末までということになっておりますけれども、この27年度末というのは、これは鳥取県生活環境部水・大気環境課が東郷池水質管理計画を作成しておられまして、その中で最終目標が27年度となっていることから、27年度とされているものであります。環境ですが、地域住民の生活に密着していた頃の東郷池に戻すということで、東郷池の水質(COD)＝科学的酸素要求量ということで湖の汚濁を図る指標があるそうでございます。そちらを4.5mg/lということで設定されています。観光につきましては、風光明媚な東郷池周辺に観光客を呼び込むということで、観光人口、宿泊客を年間20万人に設定されています。産業につきましては、東郷池の周辺環境を活かした農林水産業の振興を図るということからシジミ年間漁獲量200トンという目標が設定されています。資源につきましては、東郷池周辺に点在する歴史・文化資源を再認識しながら、その磨きあげをしていくということで、各事業の目標値を90%以上達成するということを目指しております。

続きまして、資料の4ページ目。こちらには、各分野の数値目標に対する結果の推移を挙げておりますので、後ほどご覧いただければと思います。あとの資料ですが、5ページにつきましては、今の体制の大まかなフロー図。6ページにつきましては、東郷湖活性化プロジェクトの事業体系図。7ページにつきましては東郷湖活性化へ向けた推進体制のフロー図。8、9ページにつきましては、当推進会議の設置要項を載せておりますので、こちらについても後ほどご覧いただければと思います。以上、簡単ではございますが、事務局からの概略説明ということでご理解をいただければと思います。

(山田会長)

今説明をいただきましたが、何かご質問がありましたらお願いします。

(中本企画課長)

一つ補足ですけれども、6ページの表ですけれども、体系図という形で。資源のところなんですけれども、23年度までは、資源を一つという形で表をまとめておりました。ですが、資源の中にもハード、ソフト的なものがあるんじゃないかということで、「資源の整備活用」と「文化・健康づくりの拠点」という仕分けを一つさせていただいたということでございます。「資源の整備活用」としては、17・18・19のハード的な、観光ルートの整備とかといったものを取りまとめさせていただいたところでは、「文化・健康づくりの拠点」としては東郷庄絵図の活用とかというかたちで、新たに22番・23番で東郷湖未来創造会議、ウォーキングリゾートプロジェクトといったものを追加いたしました。前回意見が出ていましたウォーキングについても、この中でとらえていこうというかたちをとらせていただいたところでは、以上でございます。

(山田会長)

何かご質問はありますでしょうか。

(山田産業振興課長)

よろしいですか。具体的な目標というところで、3ページなんですけど、27年度末までの目標ということで、産業部門で「シジミの年間漁獲量200トン」ということで設定しておられるわけですけれども、こちらに漁協の組合長もおられるんですが、操業規則の中で、1人1日10kgという制限をかけておられるようです。月に20日程度ということで、現在組合員が70名おられますけれども、シジミを獲られる方が現在59名ということでございます。70名の方が全部獲られても168トンしか獲られないというふうになっているようでして、ですからこの数字を、確かに資料として載っております平成18年とか20年、21年には200トンを超えたという実績もありますけれども、組合のほうで資源保護という観点から、そういうような規制をかけておられるということもありますので、数量のご検討をお願いできればと思います。

(山田会長)

これは、ちょっと課題ということで受け止めておくということにさせていただきます。他はいかがでしょうか。よろしいですか。また今日、昨年度の進捗状況とか実績報告があります。その中でもだぶってくると思いますので、そのときにご意見いただければと思います。それでは2番目の23年度事業の実績報告ということでお願いいたします。

(2) 平成23年度実績報告について

(山田会長)

「平成23年度東郷湖活性化プロジェクト事業実績」という資料をまずお手元にお持ち下さい。それでは順次担当課からご説明をお願いいたします。

(前田町民課長)

では、23年度の事業実績でございます。町民課からは、2ページと3ページでございます。

最初に2ページをご覧くださいませでしょうか。水草肥料化調査ということで、これは、東郷池に繁茂する水草が枯れて、腐敗をして東郷池の水質に対して悪影響を及ぼすということで、これを取り除いて併せて肥料化をしていくという取組でございましたが、23年度におきましては、その水草が生育していなかった、要するになかったということもございまして、23年度につきましては、水草の刈り取りを中止したというところでございます。

続きまして、3ページでございます。東郷池を守るアダプトプログラム制度の推進ということで、この事業につきましても住民活動により自らが環境を守っていくということで進めてきているものでございます。今年度25団体。3団体増の25団体を目標として取り組んでまいりました。その結果といたしましては、目標どおり前年度比3団体増の25団体でアダプトプログラム制度に協力いただくことになりました。参加人数につきましては目標を700人以上というふうにしておりましたが、参加者全体で836人ということでございます。このアダプトプログラムにつきましては、また24年度もあろうかと思えますが引き続き協力を進めていければというふうにご考えておるところでございます。以上です。

(山田会長)

続いてお願いします。

(岸田建設水道課長)

4ページでございます。水質浄化覆砂事業及び効果検証ということで、覆砂工事につきましては平成21年、22年で実施をしております。効果検証につきましては、平成21年から23年までを実施しております。また24年度も継続して実施予定でございます。現時点での調査結果ということで、水深が約3mよりも水深2mのほうがよい結果が得られたということでございます。今後は覆砂事業を行う場合、貧酸素化の影響を受けにくい浅場を拡大し、生物の生息環境の創出に注目した施行方法を検討することが必要と考えられるということでございました。以上です。

(山田産業振興課長)

5ページでございます。シジミの生息環境改善対策ということで、シジミの生息域の拡大と環境改善を目指しての覆砂を実施いたしました。県から良質の砂の提供を受けることができまして、11月2日に着工し、1月末に完了しております。今後もこのような覆砂

は必要であろうかと思いますが、東郷池の環境改善のために、まだ相当の覆砂を行う必要があるようでございます。

次に6ページでございます。内水面の環境保全の関係であります。東郷池のクリーンアップ事業を年1回実施しておるわけでございますが、県、町、そして事業主体で1/3ずつの事業費で80万の事業費で実施しております。10月27日に着工して、12月20に完了しております。今年は台風とか大雨がございまして、23年の実績では66.8m³、目標としては19.4m³だったわけですが、今申し上げたような事由で、目標を到底達成することはできませんでした。目標としては50%をあげさせていただいております。次年度以降でございますが、県の支援がなくなるということもありまして、町と事業主体の漁協さんと共同してやっっていこうという感じでございます。

(中本企画課長)

続きまして、稚魚放流調査ということでございます。東郷湖・天神川サケの飼育放流プロジェクトに参加しておりまして、実績といたしましては、12月26日に発眼卵を受け取りまして、天神川、東郷川、東郷湖への放流を3月11日から27日の間に実施したものでございます。町のホームページ等で公開しながら行っているというところでございます。以上でございます。

(山田産業振興課長)

続きまして、8ページでございます。池の産物料理メニュー化促進の取組でございます。これはシジミの料理のレシピを開発いたしまして、すでに商工会のホームページ等で紹介をして広くPRしているところでございます。また、「シジミビーフン」とか「シジミの炊き込みご飯」など、新しいメニューづくりに取り組んでおりまして、メニュー化に成功しております。「ゆりはま大漁まつり」とか、「ゆりはま市」では養生館さんの「鯉めし」「シジミ汁」、そして(株)プレマスペースさん等で開発されました「湯梨浜ちゃんぽん」などを出品していただき、啓発を図ったところであります。今後も民間の業者さん、町内の商店さん等と一緒に、シジミやコイを使ったメニューづくりに取り組んでいきたいと考えております。

次に9ページでございます。カニバス事業でございますが、これは旅館組合で実施していただいております。12月17日から3月31日まで行っていただきました。松崎地区を中心として東郷湖周辺を散策してもらうための関係者で検討会を開催いたしまして、ここに一つあるんですが、「松崎街あるき新聞」といったものを旅館組合とか地元の方々と作成をして、カニバスツアーのお客様が東郷湖周辺を歩いていただけるように取組をしているということでございまして、ツアーとしての入込客数としては昨年を1,000人ほど上回っております。

次に10ページでございます。特産品の販売促進活動の取組でございますが、本町の特産品である梨を使った「梨まるごとパイ」を試作していただいたり、また、民間業者と連携して梨の関連商品を開発いたしました。3月23日に新商品発表会ということで、「梨のコンフィチュール」これはジャムですけれども、それから飲むお酢、それから「梨まるご

とパイ」などを使った新商品を発表会に出しております。町内の旅館やお土産屋さんで販売していくということでこれを進めておるところでございますし、また東京の物産館等にも出品ということも検討しておる状況であります。

続きまして、11ページです。観光商品造成戦略活動でございます。今年が古事記編纂1300年にあたることから、倭文神社を題材とした企画を検討し、完成をさせております。今年の4月1日から対応しております、旅行エージェントのほうにもPR等を出かけて行きまして、JTB等の旅行者さんで企画採用されたということになっております。3月22日に倭文神社と古代料理企画について発表会を行いました。今3つの取組といたしますか商品がございます。「滝床料理」と「野花の梅園ツアー」それから「選果場の梨の食べ放題のツアー」という3つの商品に加えて、この倭文神社の商品、ツアーも進めてまいりたいと考えております。それから10月から行われますJRのデスティネーションキャンペーンに、この題材を取り入れていただいております、さらにお客様も増えていくのではないかと期待をしておるところでございます。

(山口委員：燕趙園)

12ページをお願いいたします。燕趙園でございますが、取組としては燕趙園の遊覧でございます。燕趙園の棧橋を発着として東郷湖の遊覧を実施するというものでございます。燕趙園の事業で実施したんですけれども、利用者数がかかなり少ないということがございます。最終評価のところにもございますけれども、個人単位での利用が中心でありました。例えば2人とかそういったことでございます。最終評価の1番最後に書いてございますけれども、望湖楼さんからの運行は定期的にあったということで、こちらのほうがほしい年間1900名寄られたというかたちです。こちらのほうは秋頃かなりにぎわっていらっしやったという状況でございます。

続きまして、13ページをお願いいたします。「道の駅燕趙園」ということで、平成23年4月23日に「道の駅」ということで再オープンというかたちでさせていただきました。道の駅の効果でございますは、最終評価のところでございます。昨年度比170%ということで、その前の8月から指定管理を受けておりますので、8月以降の比較ということで、1.7倍になったと。それから燕趙園の利用者との比率でいくと161%ということで、より多くのお客様、といたしますか燕趙園を利用されないお客様も「道の駅」のほうだけ買いに来られるということでございます。農産物、加工品等はまだまだ十分とは言えせんけれども、最近ですと梨記念館の協力を得まして、梨の通年販売等を実施しているという状況でございます。以上でございます。

(山田産業振興課長)

続きまして、14ページでございます。ホワイトライアスロン in 湯梨浜大会でございますが、東郷池の魅力向上、観光振興、地域の活性化に向けた取組を掲げて実施しております。進捗状況・実績についてご覧いただきますと、参加選手ですが、昨年は一般が269名、学生が19名、リレー6組、ジュニアA11名の参加をいただきました。ボランティアについても、北溟中学校等の協力をいただきながら470名の協力をいただきました。

目標としております宿泊数でありますけれども、参加数の30%以上ということで設定しております。昨年度は101人の宿泊をいただいております。宿泊の目標はとりあえず達成しましたけれども、選手の家族とか同伴者の宿泊等がまだまだでございますので、今後の検討課題であろうと思っております。以上でございます。

(中本企画課長)

続きまして、15ページでございます。湯梨浜夏まつりでございます。地域に根付いた伝統行事や湖上花火大会などの東郷池周辺の魅力向上を図るということで、地域活性化及び観光振興に向けた取組を実施するものでございます。実績報告としましては、進捗状況の欄でございますが、ホームページを6月に立ち上げまして、7月23日には湯梨浜夏祭り綱引き大会を開催、7月24日には水郷際を開催いたしております。7月31日には、とまり夏祭りということで、3つの夏祭りを行ったところであります。事業の目標としましては、ホームページのアクセス数を1,000以上ということでやっておりますけれども、カウント式には2,691件のホームページの閲覧があったということでございます。評価としましては、ホームページの更新、各観光雑誌への情報提供、新規協賛企業の獲得に努め、積極的にPRを行ったということで最終評価を行ったところでございます。

続きまして、中華コスプレ・プロジェクトでございます。燕趙園の認知度を高めていくとともに、温泉地を中心とした観光振興等幅広い波及効果に期待をこめて中華コスプレを事務局でやっていたところでございます。実績といたしましては、第10回中華コスプレ日本大会が平成23年5月28日、29日という形で開催されました。15都府県で58組、112名の参加でございます。それと、第4回中華コスプレアジア大会が23年11月12日、13日の開催でございました。このときには、韓国から11名の方をお招きしたところでございます。日本各地での参加というかたちで140と書いてありますけれども、最終報告としては144人ということでございました。訂正をお願いしたいと思います。目標といたしましては、参加人数を前年度以上にするというところでございまして、前年度に対して増えているということでございます。以上でございます。

続きまして、東郷湖ドラゴンカヌー大会でございます。東郷池の魅力向上、地域活性化、観光振興に向けた取組を実施するというところで、第11回の実績としましては、23年の8月21日に開催されております。80チーム、800人の参加でございました。前年度よりも目標としましては上げるということでしたが、前年度102チームに対して80チームという結果でございました。評価としましては、チーム数が減ったということでございます。競技運営、参加者の安全性を確保するために会場を変更いたしました。あやめ池のほうでやっておりましたけれども、会場が夢広場のほうに変わったということもチーム数の減少につながっていったんじゃないかということと、火気を使用する飲食が禁止されたことにより参加者の満足度の向上につながらなかったと。去年のカヌー大会のときには、芝生の中で和気あいあいとバーベキュー等をやられたということがありまして、夢広場のほうではちょっとできないということがあったりして、ちょっと落ちたのかなという結果でございます。

(山田産業振興課長)

続きまして、水源域森林育成作業の取組についてでございます。緑の再生プロジェクト事業を活用した間伐事業と、竹林整備事業、そしてクヌギ分収造林事業を推進してまいりました。結果といたしましては、間伐については町内30haを実施することができました。クヌギ分収につきましては園地区内で1.5ha、竹林整備については田畑、引地地区で0.48haを実施することができました。当初が20haを目標ということで設定しておりましたけれども、結果として1.5倍の30ha実施できたということになっております。ただ、県の補助自体が大幅に削減されたということもあって、竹林等についての事業の推進は、なかなか難しかったということでもございました。

続きまして、エコファーマーの推進の取組でございます。本町のエコファーマーの認定農家数は1,101人ということになっております。これは県内の約半数を占める結果でございます。大きな取組として進めておるところでございますが、今後についてもこのエコファーマーの取組をさらに環境にやさしい農業ということで評価できるものにしていくということで進めております。以上です。

(岸田建設水道課長)

20ページでございます。観光ルート整備ということで、町道今滝線の改良事業でございます。平成23年度は休止中でございます。以上でございます。

(本田生涯学習・人権推進課長)

21ページ、東郷荘絵図活用導入事業でございます。文化財解説ボランティアの育成や、文化財啓発講演会により、文化や歴史を次世代に継承する機会とするという取組でございます。地方文化財保護審議会委員や湯梨浜地区の方を対象に20名程度でございましたけれども、3回の文化財見学会を実施いたしましたし、研修会を開催したということでもございます。また、3月11日には東大助教授を招いて歴史講演会を実施したところでございました。目標に対する達成度は100%ということでもございますけれども、ボランティアガイドにつきましては、多くの文化財を説明できる形となっていないということで、今年度、24年度には、そういったことで確保したいというふうに考えております。以上でございます。

(中本企画課長)

続きまして、22ページでございます。ゆりはま塾でございます。町の歴史、伝統、自然等に関する講座で知識、技術等を習得し、次世代への継承を図るということで、ゆりはま塾を開催しているところでございます。23年度につきましては、第1期を終わり、第2期のゆりはま塾を開催してきたところでございます。第1期の反省点を洗い出しまして、塾生が自らでも勉強していくというような体制を図ってきたところでございます。23年度の実績としましては、11月14日に第1回のゆりはま塾を開催し、3月11日までに第4回のゆりはま塾を開催したところでございます。その中には、塾生が主体という形での学習会等も含めてやっているところでございます。評価といたしましては、塾生9名で活動中。塾生が話し合って学ぶテーマを決定し、自主的な学習活動を展開している。引き

続き塾生へのサポートや生涯学習・人権推進課と連携しながら年4回程度講座を開催していくということでございました。

(岸田建設水道課長)

続いて23ページです。藤津公園の地盤沈下対策でございます。23年度の10月下旬から事業に着手いたしております。工事の一部は24年度へ繰越しております。24年の7月末に完成を目指しているところでございます。以上です。

(中本企画課長)

続きまして、東郷湖活性化プロジェクト推進会議でございます。今日のこの会議でございます。年間3回の実施を計画しております。第1回推進会議を6月7日、第2回を11月8日、第3回を3月29日に開催したところでございます。東郷湖・未来創造会議も書いてありますけれども、次ページになりますので、省略させていただきたいと思っております。計画通り3回の会議を行ったところでございます。

続きまして、最終ページでございます。東郷湖・未来創造会議という取組でございます。東郷湖周辺の地域資源を活用しながら、町民との協働による魅力あるまちづくりを推進するということで、未来創造会議を立ち上げさせていただいたところでございます。実施計画といたしましては、3回の未来創造会議を開催したところでございます。第1回を23年8月3日、第2回を23年10月28日、第3回を23年12月9日に開催いたしました。分科会も延べ5回を開催し、最終的に提言をさせていただいたところでございます。「東郷湖～夢・総合シンポジウム～」というかたちで、その内容を町民の方のほうにお知らせいたしました。24年3月29日にシンポジウムを開催いたしましたところでございます。最終評価といたしましては、福井昌平総合ファシリテーターの指導の下、町民主導のワークショップとして、将来における街づくりの方向性について、提言を取りまとめました。会議の進捗状況のほか、取組のスタートとなるシンポジウムの内容をホームページ、広報紙により公開いたしました。来年度以降も事業の具現化に向けて取り組みを推進するということでございます。以上でございます。

(山田会長)

多面にわたっての報告がありましたが、どの分野でも結構ですから、ご質問等願います。

(宮本委員：鳥取県中部総合事務所)

すみません。23ページですが、補足説明をさせていただきますと、藤津公園の地盤沈下対策につきまして、現在の状況は98%まで進捗しております、あと一部芝はりが残っているという状況になっておりますので、また機会がございましたら、あやめ池のカヌー乗り場の周辺でございますけれども、ぜひ見ていただけたらと思っております。

(山田会長)

冒頭にあいさつした98%を確認しておりますので、他にいかがでしょうか。どんな分野でも結構です。では、今年度の計画をお聞きしてから過去に遡っていただいても結構です。そこで意見交換をしたいと思っております。それならば、24年の事業計画についてと

いうことで、また順次お願いいたします。

(3) 平成24年度事業計画について

(前田町民課長)

24年度の事業実施計画について、町民課所管の事業につきましてご説明申し上げます。最初2ページでございます。水草の肥料化ということで、先ほどの報告で23年度については水草がなかったということで、実施をしていないという報告をさせていただいたところでございます。本年度もまた同じよう挙げておるわけでございますが、水草は池の窒素やリンを摂取して水質浄化に非常に有効だということが言われております。ただ、水草が枯れて腐ってしまうと、逆に窒素やリンを排出して水質悪化の原因になるということがあるようでございます。そういうこともございまして、水草につきましては引き続き刈り取りをして、その刈り取った水草については肥料化をしていきたいということ、引き続きでございますが考えておるところでございます。

続きまして、3ページでございます。23年度からの継続ということになりますが、東郷池を守るアダプトプログラム制度の推進ということでございます。住民の皆さんの自らの活動によって東郷池をきれいにしていきたいということの取組でございますが、23年度末でこの趣旨に賛同して事業に協力していただいている団体数につきましては25団体ということでございますが、本年度中には30団体に増やせればよいというふうな考えで取組を進めていきたいと思っております。また、あわせまして参加者数につきましても、1,000人の大台に乗せられればなというふうな考えておるところでございます。以上でございます。

(岸田建設水道課長)

4ページでございます。水質浄化覆砂事業及び効果検証ということで、覆砂施行により底質及び一部において底生生物に改善が見られたが、その効果及び持続性を検証するために継続して調査を行うということで、24年度も引き続きまして調査を実施するというところでございます。以上でございます。

(山田産業振興課長)

続きまして、シジミの生息環境改善対策でございます。23年度に取り組んでまいりました内水面環境保全活動、そしてエコファーマーの推進活動、この二つをこのシジミの生息環境改善対策に含めて挙げさせていただきました。まず一番として、シジミの生息環境改善を目指すということで、先ほど23年度の実績でも申し上げましたが、この事業はまだまだ必要なことであろうということで覆砂を計画しております。3月30日に栽培漁業センターのご指導を受けまして、組合員、東郷湖漁協の組合員の方でシジミの勉強会をいたしまして、漁協としても取り組んでいくというようなことが話し合われたようでございまして、24年度においても事業を進めてまいりたいと思っております。訂正をお願いします。財源の確保の欄でございますが、一番上のほうです。県補助金1/3、一般財源1/3、事業主体1/3と書いておりますが、県補助金を消してください。下の内水面環境保全事

業も消してください。申し訳ありません。一般財源、町費として1／3の助成で事業主体2／3の実施ということになります。

それから、東郷池クリーンアップ事業でございます。23年度の内水面環境保全事業の取組でございますが、湖底のゴミを回収して環境を保全するというものでございますが、町として1／3の助成ということで80万の事業費で実施という計画でおります。

環境にやさしい農業を営む農業者の認定推進、これはエコファーマーの推進でございます。化学肥料、そして農薬の低減につながりますように進めてまいりたいと思います。目標としましては、継続することで効果が現れるということから、砂の確保について協力をし、覆砂について助成をしていくということで挙げております。環境面でございますが、ゴミの回収量の目標でございますが、24年度については、19.6m³を目標にしていきたいと思います。それから、JAと普及所と協力し、このエコファーマーの推進、継続的な周知・指導を行ってまいりたいと思います。それから最後ですが、減農・減肥と書いてありますが、減農薬・減化学肥料ということでございます、となる栽培暦の作成、推進を図ってまいりたいと。この四つを目標にして事業を進めてまいりたいと思います。

(中本企画課長)

続いて稚魚の放流でございます。サケの放流を23年度に引き続きまして24年度も同じように実施をする計画を立てております。進捗状況につきましては、現在のところ進捗なしでございます。以上です。

(山田産業振興課長)

7ページをお願いします。池の産物料理メニュー化促進でございます。ある程度昨年の実績で挙がってきておりますけれども、さらにそれを住民の認知を高めるための推進活動を進めてまいりたいと思います。昨年も行いましたが「ゆりはま市」とか「ゆりはま大漁まつり」にシジミを活用したり鯉を活用した料理を出品して、住民への周知を図ってまいりたいと考えております。

続きまして、カニバス事業でございます。これも旅館組合で本年も実施される予定でございます。さらにカニバスだけではなく、松崎地域・東郷湖周辺を散策していただけるような情報を提供しながら、これらの活用にも努めてまいりたいと考えております。

9ページでございます。特産品販売促進活動でございますが、町の特産品、特に二十世紀梨等を東京のアンテナショップでイベント出展するなど、町の魅力として発信していきたいと思っております。それから今年進めておりますが、「ゆりはまを愛すプロジェクト」という計画を進めております。地元の食材を使ったアイスクリームを今7種類開発しております。町の新しい食の魅力として発信をしていきたいと思っております。また、これにつきましては町民の方の認知度を高めるための取組も必要ではないかということで、そちら側にも力を入れてまいりたいと考えております。

次に、観光商品造成戦略活動でございます。現在観光商品としてありますのは、先ほど23年度の実績でも申し上げましたが、今滝の滝床料理、梨選果場の見学ツアー、野花の梅園散策ツアーというものがあるのですが、それにプラスこの4月から企画スタートさせ

ました倭文神社参拝プランの四つを軸として集客を図ってまいりたいと考えております。先ほど申しあげましたけれどもJRのキャンペーンが10月から始まります。また、8月頃からは県の「まんが王国」の取組も始まりますので、それと歩調を合わせながら進めてまいりたいと考えております。特に古事記1300年に絡むJRのキャンペーンとの連携においては、地域のボランティアガイドを養成して、地域全体で観光おもてなしをするという機運を醸成することを方針として挙げております。大きな目標ですけれども、達成できるように頑張ったいと思います。

(山口委員：燕趙園)

11ページをお願いいたします。燕趙園遊覧でございます。先ほど事業実績報告でも申しあげましたけれども、燕趙園の事業もそうなのですが、望湖楼さんからの受け入れのほうは昨年1,900人を突破しておりますので、そこをなんとか上回っていききたいというふうに思っております。年間利用目標を2,000名として受け入れを進めていきたいと。ちなみに、5月27日にすでに30名程度の受け入れがございます。ピークにつきましては9月からだいたい11月の行楽シーズンになりますので、そのあたりにしっかり集客していきたいというふうに考えております。

続きまして、12ページでございます。道の駅燕趙園でございます。先ほども申しあげましたが、平成23年の4月23日に道の駅としてオープンいたしまして、ウォーキング効果等もありましたので、昨年はかなり増えたということでございます。この4月21日から27日まで、1周年ということで誕生祭を開催いたしました。1,700名程度のご利用をいただきまして、周知方法といたしましては、ポスターの掲示、ホームページへの記載、このあたりを中心に広報をいたしたというところでございます。今後につきましては、不定期ではございますが、感謝祭という形でイベントを誘致することであるとか、あとは燕趙園の夏休みのイベントであるとか、庭園の花火であるとか、こういったものに合わせて同時にイベントを行っていくということで誘客を図っていききたいというふうに思っております。以上でございます。

(山田産業振興課長)

続きまして、ホワイトライアスロンin湯梨浜でございます。すでに選手の募集等は終了いたしまして、実績欄をご覧くださいと、一般311名、学生20名、ジュニア16名、リレー13組と、昨年を上回る参加をいただいております。ボランティアにつきましても予定していた450名のご協力をいただくようなことになりました。すでにボランティアの説明会を6月3日に開催し、進行しております。目標としております宿泊者の呼び込みの状況でございますが、本年は町内の旅館に宿泊していただきますと、大会のキャップ(帽子)、フラッグ等の特典をつけて宿泊の受付をしたわけでございますが、残念ながら、昨年が100だったんですが、今年は34名。32と書いてありますが34に訂正してください。34名の申込みがございました。結果として終了しましたが、旅館組合等に確認をいたしますと、多分100名以上はあったのではないかと期待をしております。以上でございます。

(中本企画課長)

続きまして14ページ、ゆりはま夏まつりでございます。実施計画の中に今年度分が掲げてあります。皆様の机のところ今年度のものをつけさせていただきました。「ゆりはま夏まつり」というものをつけさせていただきます。今年度の計画としましては、7月21日に綱引き大会をハワイ夢広場のほうで行います。これまでは東郷地区の選果場等でやっていたけれども、今年度から羽合地区のほうにもということで、初めは温泉街でという計画もあったんですけども、期間的に間に合わなかったということで、この度はハワイ夢広場で綱引きを開催するものでございます。7月22日には水郷祭を東郷湖畔で開催いたします。7月28日にはとまり夏まつりということで、泊のほうの港のほうで開催いたしますので、また皆様のほうも参加のほうをよろしくお願ひしたいと思います。以上でございます。

続きまして中華コスプレでございます。今年度の進捗状況といたしましては、第12回中華コスプレ日本大会を24年5月19日と20日に開催されました。参加者が194名ということで、参加者が大幅に伸びていると。前年度は112名でございましたが、今年度は194名というかたちで交流人口の拡大を図っているところでございます。それと、第15回の中華コスプレアジア大会を24年の11月10日から11日に開催を予定されております。これにつきましては、今年度は県の「まんが王国」の関係の補助をいただきながら共催というような形のイベントが開催されるのではないかと、大きな大会になればということで、思っているところでございます。以上でございます。

続きまして、東郷湖ドラゴンカヌー大会でございます。実施の方法としましては、会場はハワイ夢広場、昨年大会からあやめ池スポーツセンターより会場を変更して今年度も会場はハワイ夢広場のほうで開催されます。昨年の反省をふまえて、屋台等を実施しながら、屋台等を充実しながら、参加者の満足度の向上を図るというかたちで今進められているところでございます。進捗状況の欄でございますけれども、カヌー大会を8月26日に開催する予定になっております。目標といたしましては、100チームを県内外のチームから幅広く募るということで、前年度が80チームだったものを今回100チームというかたちで目標を掲げられているところでございます。以上でございます。

(山田産業振興課長)

続きまして、水源域森林育成作業の取組についてでございます。本年も昨年同様、緑の産業再生プロジェクト事業を取り入れまして、間伐事業そして竹林整備事業、できればクヌギ分収造林等を進めてまいりたいと考えております。森林組合と連携をして事業の実施を図ってまいりたいと思ひますが、竹林の整備については、目標として1.5ha、森林間伐については20haを計画しております。

(岸田建設水道課長)

18ページでございます。観光ルート整備ということで、町道今滝線道路改良事業ということで、本年度4月に国費の内示がございました。5月に交付申請を提出しております。6月末には交付決定が来るものと思ひております。それを受けまして事業を実施してまい

ります。平成24年度内で完成を目指しております。以上でございます。

続きまして、19ページでございます。藤津公園の地盤沈下対策ということで、これにつきましては繰越事業ということで、平成24年6月、前回7月までというふうに申し上げましたが、工事がかなり順調に進んでいるようでございまして6月末までには完成というふうに聞いております。そして、現在の工事の進捗状況、③ですけれども、「水生植物園」これのみが残っているというふうに言われております。目標の達成度ですけれども、先ほどご指摘にありました。これが98%ということで訂正をお願いいたします。以上でございます。

続きまして20ページでございます。東郷湖周道路整備事業ということで、県道東郷羽合線でございます。藤津から宮内の区間歩道設置事業でございます。計画延長を860m、幅員を6m、全幅を10mで、今年度は測量調査設計業務を実施するものでございます。以上でございます。

(本田生涯学習・人権推進課長)

21ページでございます。東郷荘絵図活用導入事業でございます。今年度は文化財解説ボランティアの研修によるボランティアガイドの育成、あるいは文化財啓発講演会の実施により、東郷湖周の貴重な文化財について町内外へ発信する機会とするということで実施するものでございます。方針といたしましては、ボランティアガイドの育成のために、文化財見学会に見えられた方を対象に実際に説明案内役を交互にやってみるというような方法を取り入れて研修を行いたいというふうに考えております。進捗状況としても現在のところ具体的なものは取り組んでおりません。以上です。

(中本企画課長)

22ページ、ゆりはま塾でございます。実施計画としましては、学習会を年6回程度開催する計画をしております。また、ゆりはま塾(町主催)では、年4回程度開催する計画としております。それと、生涯学習・人権推進課と連携しながら、生涯学習のほうで開かれる会のほうにも参加していくというかたちで進めていきたいと思っております。事業進捗としましては、5月18日に第3回の学習会、塾生主催の学習会を開催したところでございます。現在までの評価は、塾生は定期的に学習会を開催し、自主的に学習活動に取り組んでいるということでございます。目標に対する達成度としては、現在のところ10%ということでございます。以上でございます。

続きまして、東郷湖・未来創造会議(天女の降る里づくり事業)でございます。実施計画の欄でございますが、東郷湖・未来創造会議で集約した事業を具現化するため、新たに東郷湖のシンボルとして設定いたしました天女によるまちづくりを積極的に推進するものでございます。東郷湖・未来創造会議の中のプロジェクトといたしましては10個のプロジェクトがございます。説明は省かせていただきますが、「天女イメージ創造プロジェクト」から「魅力あるイベント創造プロジェクト」というかたちでプロジェクトを組んでおるところでございます。実施スケジュールとしましては、計画の欄でございます。今年度は、天女イメージ創造プロジェクトの中の一つとしまして、天女のイラストの製作というもの

を掲げておるものでございます。現在の進捗といたしましては、キャラクターのデザイン募集を始めたところでございます。最終的には、10月に計画しております「天女シンポジウム」というものがございますけれども、この中で発表していこうということで本年度は計画しておるところでございます。それともう一つ、天女のイラスト制作依頼ということで、漫画家さんのほうに何名かお願いしてイラストを製作していただこうと計画しておるところでございます。その他にもプロジェクトというかたちで10個あるんですけども、その中でも、前倒ししながらでもできるものは進めていこうというかたちで、今後そういうものがありましたら、この中で進めていこうと思っておるところでございます。それと、スケジュールの実績欄でございますが、現在このプロジェクト、未来創造会議のプロジェクトというかたちで動き始めておりますのが、まず、キャラクターの関係では「まんが補助金」の申請等をやっておるところでございます。それと、ウォーキングリゾートということで、後でまた出てきますけれども、東郷池周辺をウォーキングのメッカというかたちでのリゾートとして進めていこうという計画をしております、一つ目が健康づくりの郷ネットワーク事業というかたちで今協議をしているところでございますし、二つ目はこの前ですけれども韓国のウォーキングの人たちが東郷池の周辺等を視察されて、今後この韓国の人たちでのウォーキングが行われるきっかけになるんじゃないかと思っておるところでございます。それから実施の方針としましては、東郷湖・未来創造会議で集約した事業の具現化へ向けて、中長期的な発展戦略として事業展開いたします。事業の進捗にあたっては、より横断的な取組が図れるよう体制を整備していくものでございます。それと現在までの評価の欄でございます。キャラクターの募集という形で進めておまして、ホームページ等で開始したほか、宣伝媒体として月刊公募ガイド（6月8日発売号、7月9日発売号）による一般公募を予定しておるところでございます。これにつきましては以上でございます。

（蔵本健康推進課長）

24ページです。ウォーキングリゾートプロジェクトでございます。実施計画といたしましては、住民の健康増進の推進と、東郷湖周辺を中心とするウォーキングの普及啓発を目指しております。それと、もう一つは中部福祉保健局が実施しております「みんなでノルディック i n 中部事業」の中で湯梨浜町のコースを設定して町内外への普及啓発を図るものでございます。実施の方針といたしましては、一般公募8名、スポーツ推進委員2名、合計10名のノルディックウォーク公認指導員を養成する計画でございます。進捗状況・実績のところでございますけれども、先ほど申し上げました「みんなでノルディック i n 中部事業」の中で、中部の各市町からウォーキングのコースを3コースずつ推薦して、それを印刷物にするという計画を中部福祉保健局が計画しております。湯梨浜町におきましては、3コースではなく5コース推薦を、そこにかいておりますように、推薦をさせていただいております。それから5月1日から18日にかけて、ノルディックウォークの公認指導員養成講座の受講生を募集いたしまして、一般公募の8名を決定いたしました。スポーツ推進委員の2名につきましては、明日開催予定の推進委員さんの定例会で決定を

していただく予定にしております。養成講座につきましては、7月に実施をしたいと思っております。以上です。

(中本企画課長)

25ページ、ウォーキングリゾートプロジェクトです。同じような内容になるかと思いますが、各団体等とか町の他のところもいろいろやっておるということがありますので、それらのことも触れながら、このプロジェクト推進会議のほうに挙げていきたいということで、挙げさせていただいたところがございます。まず、進捗状況・実績のところを見ていただきたいと思いますけれども、まず4月27日「ケータイで健康づくりウォーキング」記念大会を県のほうが開催されました。参加人数125人ということで、東郷池周辺で、携帯で自分のコースを歩いたというようなかたちで、携帯でウォーキングができるというものを県のほうが作られたということでございます。それと5月27日には東郷池春の健康散策ウォーキングを、あやめ池の臨海公園のほうで開催されております。参加人数は大人297名、子ども9名という形で306名の参加でございました。また、6月16日から17日におきましてはSUN-IN未来ウォークというかたちでNPO未来さんのほうが主催者となって行われる中で、東郷池の周りを歩いていただけるということでございます。8月18日には東郷湖ナイトハイクが町の青少年育成町民会議のほうで開催されます。また、10月におきましては、東郷池秋の健康散策ウォーキングが、これは春に引き続きまして、あやめ池スポーツセンターのほうで開催されます。それと、今年度が第2回になると思うんですけれども、11月10日から11日にはノルディックウォーク湯梨浜大会(全国大会)をNPO未来さんのほうでやっていただけるということでございます。それと、先ほど健康推進課長のほうが言いましたけれども、この他にウォーキングコースというかたちで、日本市民スポーツ連盟イヤーラウンド認定コースが2コースほど設定されているところでございます。以上でございます。

続きまして、最後でございます。東郷湖活性化プロジェクト推進会議、当会議でございますが、第1回の会議を本日開催させていただいたところでございます。引き続き、今後は第2回会議を10月の間にと考えておりますし、第3回を3月中に開催ということで事業の進捗を図っていききたいと思っております。以上でございます。

(4) 意見交換

(山田会長)

では、皆さん方からどうぞ、なんなりとご質問、ご意見お願いします。いかがでしょうか。ご遠慮なく。

(高野委員：東郷池メダカの会)

二点ほど。4ページのことで、東郷湖の水質を良くしようということで覆砂が実際行われているわけですが、以前にヘドロを取ったところがあるわけですが、その場所もよく分からないんですが、そのヘドロを取ったあと、それから現在シジミがいる砂の場所というようなことの関係です。先ほど質問がありまして、砂になっている周りをというよ

うな、そこを中心というような話を、その通りだと思いますが、それが大事なことで、特に最近というか10年くらい前ですか、ヘドロを採った後っていうのは柔らかいというか、それが低いですからやっぱりたまっているわけですね。そういうところに砂を持ってきてもあまり効果がないのではないかなど。長い間にたまったところに持っていくのはいいんですけれどね。そういうようなことで、効果的な場所を十分研究しておられるとは思いますが、以前のヘドロを取った場所の問題ですとか現在の砂でシジミのおるようなところを、というようなことを、十分見て、考えていただいて効果的な方法で覆砂をしていただきたいと思います。なんでもかんでも入れたらいいわけでないにして、普通のヘドロがたくさんたまっているような柔らかいところはいくら入れても全く意味がないと思いますので、その点を考えていただきたいと思います。

もう一点です。もう一点は、先ほど東郷池の周りの道路整備のことに関係してですが、20ページです。歩道整備のことが出ておりましたが、これは東郷池周辺だけではないんですけれども、歩道の材料ですね、普通よくアスファルトをするわけですが、山の中のところであれば土がいいんですが、自然に優しい、人間に優しい、歩きやすい、というようなことからですね、アスファルト以外、セメントはもちろんです、アスファルト以外のいろんな、その予算の問題もあると思いますけれども、そのチップのようなものを混ぜたり、というようなことで歩きやすい、環境に負荷のかからないような材料を検討していただきたいと思いますという思いがあります。

(山田会長)

これは何かお答えになりますか？

(岸田課長)

4ページの水質浄化の関係でご質問をいただきました。この分につきましては、覆砂はすでに21年22年で実施をしております。申し訳ないですが、事業主体が県ということで、ヘドロを取って砂をまかれたのではないと思っているんですけれども。ヘドロの上に砂を敷かれたような記憶がございますけれども。ですから、今4ページでご質問をいただいたのは、もう一つ産業振興課のほうでシジミの関係でありました、そっちのほうの覆砂の関係かなというふうにお伺いしたんですけれども。

(宮脇町長)

ちょっとよろしいでしょうか。今申しましたように、21年22年度に県で1億円ずつ2億円出して覆砂をしていただいたところは、昭和の頃からずっとヘドロ除去というのを、この東郷池と湖山池とやっております。で、大きな穴が開いているわけです。基本的にはそのところに入れたのが21年と22年度のことです。それで、あと毎年やっております分は、漁協の組合のほうにも協力していただきまして、まあシジミが獲れる周辺の中にぽつぽつと、ですから、それほど県が入れたところほど大きな穴じゃないんですけれど、やっぱり掘った穴のあとが残っております、そのところに入れているということで、そこはかなりシジミのほうに結びつくだろうなというふうにも思っておりますけれども。そういうことです。

(足立委員：東郷湖漁業協同組合)

昔、田んぼに、東郷池の砂をとって田んぼに入れた時代がありまして、そこで東郷池におおかた50箇所くらい穴が開いてるもので。そこを徐々に埋めていくというか、そういうことで今覆砂というのをやっています。

(宮脇町長)

ですから、毎年漁協さんと町の補助金も使っていただきながら町と漁協と三者でやって、そのちっちゃいやつは少しずつ入れてきているということが一方であるし、もう一方で、大きなものについて、21年、22年でぼんと入れていただいたと。でまた成果のほうは、これからその被さった、ヘドロの上に被さった成果というのはこれから出てくる、検証をまだしていかなきゃならんという状況だと思います。

(宮本委員：鳥取県中部総合事務所)

結果を聞いたところなんですけれども。まだまだ効果検証はこれからなんですけれども。やはり水深の深いところに埋めておりますので、その下にヘドロもあるわけですね。やっぱり酸素が水深の深いところは少ない、その影響なんじゃないのかなということでしたけれども、やはりシジミの生息は5月くらいまでは確認できるんですけれども、その後はシジミの生息が非常に少なくなっているという状況があったということでした。そこを少し詳しく分析して効果検証する必要があるなと思っております。

(尾崎委員：湯梨浜料飲組合)

漁協の組合長に聞きたいです。実際のところシジミを獲っていらして、増えてるっていうか、増えてるっていう感覚はあるんでしょうか。

(足立委員：東郷湖漁業協同組合)

ここ5、6年大きな台風が来なかったこともあるし、あまり池が荒れてないもので、覆砂のほうがちよっと少なくなっただけで、ちよっとっていうか、だいぶ死んだもので。今のところ、ちよっと漁獲量は減ってきておるほうですね。

(尾崎委員：湯梨浜料飲組合)

実際に、料飲組合のほうでは、シジミが高くなりすぎて、地元では使えないというか、地元の人では使えないというのが現実の問題なので。確かに黒いダイヤだから、町外の人には高く売ってほしいんです、町外には。でも、町内で食べようと思うと、それが手に入りにくい。外に回したとなったら手に入りにくくなるという矛盾がありまして、非常に。せっかく商工会なんかでもシジミのレシピとかいろんなものを出してくださるのはいいんですけど、実際にじゃあ町内で買って、じゃあやってみようとか、やってみて外に発信するわけでしょう。こういうのをうちでは食べてるんですけど。そこらへんが矛盾になっちゃうというか、非常にやりにくい部分があって、ちよっとどうにかならないものだろうか、できることならというのは、料飲組合って言うか旅館さんとか、女性会なんかでも、いつも出てくる話なんですけど。そういう意見もあります。

(宮脇町長)

よろしいでしょうか。今おっしゃったことはやっぱり私らも感じておりまして、まあ絶

対量が少なく、その一方で市場のほうからは求められているということもありますから、それ全部きちんと流れていくルートをそれぞれに持っておられますし、なかなかそのものが余るようなかたちで町内に出回ったりということはないのが現実だろうというふうにも思っております。そういった意味からいうと、やっぱり長い目で見て漁獲高を増やす対策を取っていくことしか方法がないのかなと思ったりもしております。

(足立委員：東郷湖漁業協同組合)

漁獲量が増えれば、いくらでも出したいのは出したいんだけど、どうしても少ないもんで。前は1時間もあれば獲って帰っていたのが、今は2時間かかっても獲れない。で、高齢化してるしね、結構。なかなか2時間も体力が続かんっていう人もあって。まともに獲ってくる人は少なくなってきてしまって、今。販売出しても10万円きってるもんで。そういう状態なもんで、どうしても関西市場に流れちゃうもんで。あっちのほうからの注文もなかなか断るわけにもいかないので。ぎりぎりのところでやってる。夢広場でも出していたけれど、だんだん出せるような状態でなくなってきて。もうちょっと増えれば町内にも出したいんだけど。予約で一生懸命になってまして。

(宮脇町長)

年に1回、シジミの日くらいは町内に出回るような形でも作っていただければという声はよく聞いたりもしますけど。一応ご参考までに組合長に報告しておきます。

(尾崎委員：湯梨浜料飲組合)

一番つらいところは、多分、町民が口に入るっていうことよりも、旅館さんで定期的に観光客の方に出せないとか、いろんなイベントで町外から来てくださった方に安定して出せないというところが、多分一番つらいところだと思うんです。町内の方はそれでも少しづつでも知り合いの方から回してもらったりとか何とかなるかしらんけど、いろんなイベントで来てくださる観光客の方に安定して出せないっていうのは、これはちょっとつらいところがあるなって思うんで、そのへんのところをよろしくお願いします。

(高野委員：東郷池メダカの会)

それです、すでに努力しておられると思うんですけれども、漁協のほうでもっと増産、増やす方法を町と一体になってやってもらいたいと思います。というのが、ご存知だと思わすけれども、シジミというのは水質浄化に非常に大きな効果があるわけです。そういうこともありますので、環境をよくして、シジミを獲って儲ける。シジミをたくさん増やすことによって、浄化も進められるという二重の効果があると思いますので、よくいろいろ研究していただいて、あるいは栽培漁業センター、これは海のほうかもしれませんが、そういうことを研究していただいて、水をきれいにして、しかもシジミがたくさんおるよというようにということを総合的に考えていただきたいと思います。

(山田会長)

古田さん、先ほどお手があがりましたが。

(古田委員：鳥取県栽培漁業センター)

いや、同じことです。せっかく昨年覆砂の効果調査をして、3mより深いところはどう

やら効果が少ないなというのが見えつつあるので、本年度はどういう方向で考えておられるのかなど。県の事業になってしまうんですけど、町の課題としてはどうだろうか。

(山田会長)

先ほどもう一点、歩道の材質云々って話について

(岸田課長)

20ページの東郷湖周の道路整備事業ということで、歩道がコンクリというかアスファルトではなく歩きやすいものにといいご質問をいただきました。この件につきましては、今年度につきましては、測量と設計という段階でございますので、そのあたり、どういふふうになるのかはまだこれからということですので、ご協力、ご理解をいただきたいと思ひます。

(山田会長)

他にいかがでしょうか。どんな点でも。では川崎さんお願いします。

(川崎委員)

藤津と宮内の歩道のことですが、桜並木は生かされる格好になるのでしょうか。

(宮本委員：鳥取県中部総合事務所)

歩道のことでしょうか。桜並木は残して、山手側のほうを拡幅するようなことか考えたいなと思っておりますけれど。今年測量、設計ですので、その辺も皆さんのご要望も聞きながら検討していくことになると思ひます。

(川崎委員)

山手側は岩盤ですよ。

(宮本委員：鳥取県中部総合事務所)

岩盤です。

(川崎委員)

あんまり掘りにくいと思つたんですけれど。

(長)

桜並木は残したいですけどね。個人的な意見かも分かりませんが。

(宮本委員：鳥取県中部総合事務所)

桜はなるべく切らないようにということで、考えております。

(川崎委員)

桜は絶対に残してください。

(宮本委員：鳥取県中部総合事務所)

はい。

(川崎)

ありがとうございました。

(山田会長)

他にいかがでしょうか。

(長谷岡委員：鳥取県衛生環境研究所)

ちょっといいでしょうか。計画の立て方の問題なのかもしれませんが、5ページの「シジミの生息環境改善対策」というところで、これまでの東郷池のクリーンアップ事業、それからエコファーマーのところも、この中に組み入れたかたちで計画を立てたということだったんですけども、昨年度からの考え方で言うと、このクリーンアップ事業とかエコファーマーの部分の目標とかが、このしじみの部分とはちょっと違うんじゃないかというふうに思うんですけど。全体として水質には係ってくるんですけど。

(宮本委員：鳥取県中部総合事務所)

私もあとで言おうとおもったんですけど、関連で。産業のところには16番の水源域森林育成作業の他にもう一つ去年の場合はエコファーマーの推進があったと思うんですけど、それが今年はないんです。先ほど取り組むことは発表していただいたので、ぜひ項目立てをしていただくのがいいかなと思っております。といいますのは、東郷池のアクションプログラムを作成されております中に、環境に優しい農業の推進という項目も立てられておりますし、シジミのこととは切り離して、やっぱり大項目でもって、農業の部分でもしっかり環境を意識した農業に取り組んでいるんだよと。水田はもう非常に素晴らしい取組がされておりますけれども、果樹農家の認定に向けて、取り組むというようなこともプログラムには書いてありますので。果樹は非常に難しいってことはあるんですけども、化学合成肥料であったものを、そのときどきに必要な肥料をまいていくと効果があるとか実証試験も現在普及所のほうでやっているようですし、新品種の導入につきましても、まあ黒斑病に強い品種になりますから、どうしても全体で言えば、農薬は減らしていくこともできますので、そういう一歩前に進む取組から目標設定していただいて、ぜひあの項目立てをお願いしたいなと思っております。

(山田会長)

これはどうですか。

(仙賀副町長)

すみません、遅れまして。事務局長の仙賀といいます。言われることは分かりました。それぞれここに書いてある環境部門、町民課と産業振興課、別々に検討に入ってもらいます。内容についてももう一回精査して、必要であれば別立てで挙げていきたいと思っています。それと言われるように目標値の設定は必要だと思っていますので、それも踏まえながら再度とさせていただきます。

(遠藤委員：東郷湖・未来創造会議)

漁協さんの分野になるのかもわからない。東郷池の水産資源っていいですか、今ずっとシジミがかなりずっと取り上げられているんですけども、その他にはなんか東郷池で取れる食べものっていったらなんなんですけど、本当に値段が高くなるんじゃないかっていう今一番のものって、他に何か水産資源ってものはないもんなんじゃないかな。

(足立委員：東郷湖漁業協同組合)

東郷池の食べ物は、今現在はウナギと手長えびですかね。冬になったら寒ブナ。あとは、

せいご。今の時期ならせいご。あんまり川魚っていうのは値段がよくないもので。今ウナギが少ない少ないっていつている割には、養殖の太ったもんばかりが値段がいい。天然物で、京都に行くと天然物が手に入らなければ店を休むって店もあるんだけど、天然物が重宝されてるということで。この辺で天然物っていうと粒がそろってないからいらんって人が多いものでね。そう考えて関西に売ろうと思ったらいい値段がするんだけど、まとまらないっていうか。漁獲高もそんなにないし、毎週毎週出荷するほど獲れないし、まとめるまでに生簀の中で死んでしまうのも多いし。ごく近くに出すのに結局二束三文。それでも買う人は結構いるんだけど。

(遠藤委員：東郷湖・未来創造会議)

もったいないですね

(足立委員：東郷湖漁業協同組合)

もったいないと思う。関西に出したら1本1万円くらいで売れる場合もあるんだけど。このあたりだったら1,000円か2,000円。

(尾崎委員：料飲組合)

飲食店では、旅館さんでは、10年くらい前までは、冬はフナのこまぶりとかね、旅館のメニューとか飲食店のメニューに出すのが当たり前みたいだったんですけど、フナとかコイも減ってるのかもしれないですけど、今ほとんど地元でも東郷池の寒ブナのこまぶりなんて食べれなくなっちゃいましたし、獲って下さらないのか、出てこないのかそれは分からないんですけど。それとか、あと7、8年くらい前にコイを、冬はコイをあらいで食べるとか、そういうのをやってみようかというようなこともあったんですけど、やっぱり、淡水魚ってくせがあるから、お客さんに不評だったりする場合も、調理の仕方にもよるんでしょうけど、そういうのもあって、いつの間にかだんだんと地元の旅館さんでも要望がなければコイとかフナを使った料理っていうのが減ってるように見受けられるんですね。どこに行っても、食べさせてもらえるのは食べさせてもらえるんだと思うんですけど、ちゃんとした処理のできる料理人さんと、それを確保できる方法がなければできなくなってしまいうんじゃないかなと思うんです。だから期間限定でも何でも、例えばこういうものも食べられますっていうふうにPRしていくことも一つの方法かもしれないと思います。

(遠藤委員：東郷湖・未来創造会議)

そうですね。せっかくここまで来られて、ここでないと食べられないものとかあってあると、うりになると思う。

(尾崎委員：料飲組合)

そうですね。古代食やなんかに、3月の分にはあったんですけど、それでもやっぱりフナのこまぶりとコイのあらいなんていうのは、言ってみれば時期が限定されたときのほうがおいしいものですから、そういうものに関しては年中は出せないから、そういうのはやっぱり特別にPRしていくのも、期間限定っていうのも方法じゃないかなと思ってね。PRの方法だとは思いますが。

(足立委員：東郷湖漁業協同組合)

フナのこまぶりはね、ここの東郷湖のフナは汽水湖なので臭みがなくて、評判がいいんだけど、岡山のダムなんかから獲ってきたものを「東郷湖産」として出したりして、それを食べた人がフナの臭いをいっぺんで嫌ってしまって食べられんようになってしまった。それでなんていうか、白魚でもそうですけど、みんな東郷湖産にしたら売れると思ってね、みんなそういうふうに出すんですよ。産地偽装だけど、あれで評判が悪くなっちゃって。

(尾崎委員：料飲組合)

シジミみたいにブランド化していかないといけないのではないかな。

(川田委員：方地地区資源景観保全向上活動組織)

スーパーで出ている「東郷湖産」は東郷のか分からない場合もある？

(足立委員：東郷湖漁業協同組合)

ほとんど岡山産。うちで出した覚えはないから。

(山田会長)

はい。ほかにはいかがでしょうか。

(宮脇町長)

これはかねてからお願いしていたんですけど、ウォーキングの関係で、町がナイトハイク、青少年の健全育成といったことで単独でやったりしているんで、観光事業団のほうでやっておられるウォーキングの年間の行事の中に組み入れてもらって、一緒にやるようなことも考えているということを書いてたんですが、なかなか進んでないようでした。

今度、未来創造会議の関係でウォーキングリゾートとしてここを一生懸命頑張っていくということになります。もっと町のホームページなり観光事業団のホームページなり、あるいは未来のホームページの中に年間のウォーキングの大会とかその教室とか、そういったものがパッと見れるくらいの連絡体制とかそういう表現のできる場はセットしたいと思いますので。その辺また、気持ちのどっかにおいてやっていただければというふうに思います。

(山田会長)

ほかにはいかがでしょうか。今日冒頭に、先ほどからシジミの話がたくさん出てきたんですけど、200トンっていうのに対してどうだっていうのがありましたけれども。どうしましょ。24年度のプロジェクトの最終ページをご覧ください。これは、左側に整備目標というのが書いてあって、右側に実績が書いてあって、そして、これに向けて頑張ろうやっていうことをやってるわけですけども。目標は目標だからこのまま一応設定していくのか、いろんなご意見を踏まえながら、ちょっと実態に合わせたところに整備をするのかっていう、そこらへんの話だろうと思うんですが。足立さんはいかがですか。

(足立委員：東郷湖漁業協同組合)

商売はシジミを主にやっているもので、なんとかシジミを増やしたいなと思ってるんですけど。とかくシジミ相手なもので環境が整わないと。ここのところ水質調査とかいろいろやってるんですが、なかなかここ2~3年、産卵が上手にいけないというのか。3年た

たないと、3年くらいたってやっと「中」で売れるくらいで、やっぱり5年ものの「特大」くらいにならないとお金にならないもんで。このところ、ちょっと今先細りでちょっとどうするかなということでは話してるんだけど、何も対策みたいなものは。栽培漁業センターの福本君なんかとシジミの話はしてもらったところなんですけどね。そのときも先細りで弱ったねなんて言われたもんで、業者もみんな心配してるんだけど。まあ、ここにあるように増やしたいな、年間200トンに持っていききたいなっていう気はあるんだけど、なかなかいい方法が。

(山田会長)

では、一応200トンで設置していきましようかね。なんか目標を下げるのもちょっとあれなんで。ではそういうようなことで。ほかにいかがでしょうか。どんな角度でも結構ですから。よろしいですか。では、今後の推進会議の進め方ということで事務局お願いします。

(事務局 赤坂)

今後のスケジュールですが、第2回を10月上旬に予定。内容は各事業の中間報告、推進会議としての進行管理チェック。第3回を3月中旬に予定。こちらの内容は各事業の成果検証、次年度へ向けての目標設定ということで計画をしております。

(山田会長)

この24年度の実施計画の26ページ。そこに書いてあるようなところで、今日は1回目ですけれども、第2回、第3回としたいということですので。事務局は用意された議題は以上ですか。各委員の方、なんなりとこの際ありましたらお願いします。遠藤さん、なんか創造会議のことも含めて何か皆さんにあればおっしゃって下さい。

(遠藤委員：東郷湖・未来創造会議)

東郷湖活性化プロジェクトという会議自体は年に3回。次は10月上旬、3月っていうことなんです。それぞれの団体が事業をしていく中で、横の連絡がとれるような環境というのは、特徴的でどこかを取り立てして連携できるっていうことは知らせていただければ、お声かけできるんじゃないかなと思うんですけども。

(山田会長)

分かりました。ほかにいかがでしょう、この際、皆さん。

(仙賀副町長)

一つよろしいでしょうか。先ほどのエコファーマーの関係とゴミの回収量の関係でございます。エコファーマーにつきましては、別立てして改めて目標設定をやっておきたいと思っております。ごみの回収量につきましては、ここに23年度目標値設定を採用と書いてありますけれども、これも再度検討させていただきます。

(山田会長)

宮本所長よろしいですか。他に皆さんよろしいですか。

(長谷岡委員：鳥取県衛生環境研究所)

一つ宣伝をさせていただきたいんですが。衛生環境研究所では、南谷地区の環境保全会

の皆さんと毎年ホテル観察会というのをやっております、今年も6月の22日金曜日に研究所のほうで観察会をやろうと計画しておりますので、ぜひ皆さんおいでいただき、周囲の皆さんにお声かけしていただければと思います。

(山田会長)

時間と日時をもう一度。

(長谷岡)

6月の22日の金曜日7時半からです。最初にちょっとホテルの解説をしたりして、暗くなるのを待ってから実際に。

(山田)

素敵ですね。町長さん他に何かありますか。

(宮脇町長)

皆さんご承知のとおり、トリンドルさんという若い娘さんがコマーシャルに出て、県のほうも「まんが王女」ということで任命されて、ふるさと大使にも任命されて、まんが王女のほうでこれから県のほうは都市部でPRしたり、あるいは鳥取県内の大会のときに招いたりという格好で取り組まれます。で、湯梨浜もせっかくのチャンスだからということで、実はこの間県が東京で写真を撮られるのに、湯梨浜も天女の姿と、それからもう一つはハワイアンのアロハかあるいはフラのときのドレス、あれのどちらかの一つ、二種類の写真を撮ってくださいということを県のほうに挟み込んでもらうようお願いしまして。ハワイアンの方はちょっと撮っていただけたんですが、天女の方は衣装を探したりするのも困難、時間もないということで断られまして。要するにハワイアンの服装をしたトリンドルさんの写真が何枚か町が使えるものとして届きます。で、これからそれをポスターに使ったり、あるいは缶バッジみたいなものを作ってみてもいいかなと思ってみたり。ファイルみたいなものをしてもいいかなと思ってみたり。いろいろと活用を考えているわけなんですけど、県が基本契約というものを結んでおられまして。それが5月から11月までの半年間しか使えないということがありますんで、それ過ぎるとばらまいたりすると違反になりますから。ということもあって、これから一気果敢にPRに使うものは使ったりということで、イベントでも積極的に入れて使ったりということで考えております。また皆さんのほうでもぜひご活用いただければ、湯梨浜のPRになると思っていますので、よろしくをお願いします。

(山田会長)

他はよろしいですか。では今日はこれで第1回を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。